



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

4月号—No.288

2019.3.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【鶺鴒(ときいろ)】鶺鴒(朱鷺)の翼のような美しいピンク色。

江戸時代に生まれた色名。当時は鶺鴒がいたるところにいたことから鶺鴒の翼の下や風切羽のような美しいピンク色を鶺鴒色と呼ぶようになった。ニッポニア・ニッポンという学名といい、美しい伝統色になっていることといい、鶺鴒の方が日本の国鳥にふさわしいような気もするが、日本の国鳥は桃太郎でお馴染みの雉子でこちらは色名にもなっていない。

## ●目次 / contents

### 今月のニュース..... 2

平成30年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」報告

### 財団からのお知らせ..... 4

第19回地域伝統芸能まつり開催 / ステージラボ富士見セッション参加者募集 / 平成30年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」報告 / 平成29・30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」鹿兒島セッション報告 / 平成30年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」報告 / 平成30年度「リージョナルシアター事業」報告

### 今月の情報..... 8

地域通信

### 今月のレポート..... 12

富山県富山市 オーバード・ホール

タニノクロウ×オール富山『ダークマスター2019 TOYAMA』

## ●平成30年度「公共ホール現代ダンス活性化事業」

# 各地の地域資源を活かした市民参加作品

平成30年度

## 「公共ホール現代ダンス活性化事業」 報告



地域創造では、平成29年度に「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」をリニューアルしました。主な改変点は、アウトリーチと公募型ワークショップを実施するAプログラム/市民参加作品を創作するBプログラム/アーティストのレパートリー作品を上演するCプログラムから選択できるようにした上で、3年にわたって実施できるようにしたことです。今回は今年度参加した15団体から、市民参加作品を創作した徳島県郷土文化会館あわぎんホールと静岡県・川根本町文化会館の取り組みを紹介します。

### ●義太夫とコラボレーション ～徳島県郷土文化会館あわぎんホール

平成29年度から3年計画でセレノグラフィカ(隅地菜歩、阿比留修一。以下、セレノ)と共にダン活に取り組んでいるのが徳島県郷土文化会館あわぎんホールです。「コンテンポラリーダンスを通じて、何か地域に根付くものがないか」と考え、徳島の文化的資源である人形浄瑠璃の義太夫とのコラボレーションを企画しました。徳島洋舞家協会の指導者で日舞や郷土芸能にも詳しい檜千尋さんと相談しながら進

め、三味線奏者で義太夫の弾き語りをされる鶴澤友輔さんに参加していただきました」と担当の宇野榮展さん。

友輔さんは第22回国民文化祭・とくしま2007で瀬戸内寂聴が書き下ろした新作『モラエス恋遍路』の作曲・演奏もしたアーティスト。1年目にはAプログラムとして、セレノと友輔さんが顔合わせするワークショップを実施し、コンテンポラリーダンスと義太夫の語り体験をしました。それを踏まえ、今年度はセレノ、友輔さん、未就学児から70歳代までの市民17名が『壺坂観音霊驗記』(妻の不貞を疑う盲目の沢市と夫が治るよう観音詣りをする妻・お里の世話物)をモチーフにした創作『枯れたる木にも花が咲く』に挑戦。3月3日の本番では、セレノと友輔さんの沢市・お里さんの弾き語り、ワークショップで市民が創作したパート、阿波踊りや徳島のわらべ唄など「夢と浮世」が交錯した不思議な世界が展開していました。

友輔さんは、「夫婦の話なら義太夫を知らない人にもわかりやすいし、夫婦の軽快なやりとりがセレノの二人にはぴったりだと思いました。実はコンテンポラリーダンスに対する知識

写真1: 徳島公演『枯れたる木にも花が咲く』クリエイションの様子

2: 『枯れたる木にも花が咲く』公演の様子  
提供: 徳島県郷土文化会館あわぎんホール

3: 川根本町公演『川根本町の人々』クリエイションの様子  
撮影: 岩本順平

4: 映像ダンス公演『川根本町の人々』  
提供: 川根本町文化会館

●公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)に関する問い合わせ

芸術環境部 粟林

Tel. 03-5573-4055

dankatsu@jafra.or.jp

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

がなく、漠然と不思議な踊りをするものというイメージだけがありました。義太夫は型がきちんとある世界でそれを守ることが大切ですが、コンテンポラリーダンスはその対極にあって自分の中から動きを引き出してくるもの。それがとても面白くて、二つが水と油にならないようにやりたいと思いました。三味線は太夫や人形の息を感じながら演奏します。今回もセレノさんの息を感じながら演奏し、即興の部分もありました。2年がかりでお付き合いがあり、ワークショップにもずっと付き合ったので、自分の世界に閉じこもらずにこういうことがやれたのだと思います」とコラボレーションの意義について話されていました。

セレノの二人は、「友輔さんに壺坂から9つのパートを選んでもらいました。そこをすべて義太夫でやる必要はないと言われていたので、壺坂の物語を身体表現で具現化することはないでおこうと。沢市・お里を私たちが担い、それ以外は参加者の身体から出てきた正直な身体をそのままステージに置き、いろんなものが平等に並んでいる、いろんな夫婦が、いろんな人生が散りばめられている絵巻物のような舞台にしたいと思いました」と振り返っていました。3年目はセレノの公演が予定されており、この経験がどう生かされた舞台になるか楽しみです。

### ●映像とダンスで綴る『川根本町の人々。』 ～川根本町文化会館

同じく29年度から3年計画でダン活に取り組んでいるのが、SLやトーマス号で有名な大井川鐵道の終点、千頭駅から徒歩15分の川根本町文化会館です。人口約6,800人の川根本町は、世界的IT企業がサテライトオフィスを構えたことで注目されているホットな町でもあります。同会館では、これまでもダン活、ダン活支援事業に取り組むなどダンスに力を入れてきました。今回の3年計画では、1年目の東野祥子さんによるアウトリーチ、今年度の中村蓉さんによる市民参加作品創作、3年目の田村一行さんによる公演が予定されています。

企画プロデューサーの甲賀雅章さんは、「最

初は小学校にアウトリーチを受け入れてもらうのも難しかった。でも、子どもたちがダンスで表現することの自由さを実感し、表現力、コミュニケーション能力が上がるのを目の当たりにして、ガラリと変わりました。世代を超え、生きている背景を超えることができるダンスにとっても可能性を感じています。今回は川根のいろいろな人たちが出演する作品にしたいと思い、若い人も楽しめるポップなダンスをつくる中村蓉さんをお願いしました。高校のカヌー部や郷土芸能部、障がい者福祉施設、まちづくりの女性グループなどの出演団体候補と交渉を行いました。下見の時にその活動や茶畑などの風景を見てもらい、本番で使用する映像も撮影しました。見慣れた景色がダンサーの身体が入ることで変わって見える、活性化するのがとても面白いと思いました」と話していました。

3月10日の本番には、アーティストも含め総勢47人が出演。映像に加え、中村さんが振り付けた高校生たちによる『We will Rock You』、女性グループによる『Eat You Up』、福祉施設の通所者による『浦島太郎』、そしてクライマックスには出演者全員で『海の声』を踊り、会場は大いに盛り上がりました。中村さんは、「下見の時に町で見聞きたことや出会った人がアイデアの元になりました。今回はいろいろな人が参加するため、習熟度やモチベーションにも違いがあり、工夫が必要でした。それでも参加者に渡した振付が、それぞれ“自分の踊り”になって、その人らしい身体のありようを舞台上で披露できて良かったと思います」と振り返っていました。

合同稽古ができず、クリエーション期間が短いなどの課題を克服するため、練習用の振り付け動画による自主稽古を行うなど、出演団体も協働。川根高校カヌー部副顧問の先生から「カヌーは自分を鍛えるスポーツで、他者に自分を魅せる、見てもらうという意識をもつことが少ないので良い経験になりました。町外出身の生徒も多く、町民の方と一緒に創作したり、観客の皆さんに見てもらえたことは貴重な機会になりました」とコメントをいただくなど、それぞれに手応えを感じた公演となりました。

●平成30年度公共ホール現代ダンス活性化事業 参加団体  
(主会場/アーティスト/日程)

#### ○Aプログラム

- 熊本県長洲町  
(ながす未来館/鈴木ユキオ/2018年6月19日～22日)
- 長野県上田市  
(サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター/田畑真希/6月20日～23日)
- 山形県酒田市  
(酒田市民会館希望ホール/田村一行/10月3日～6日)
- 兵庫県西宮市  
(西宮市民会館/セレノグラフィカ/10月17日～20日)
- 愛知県小牧市  
(小牧市民会館/東野祥子/10月24日～27日)

- 愛知県豊橋市  
(穂の国とよはし芸術劇場プラット/田村一行/11月20日～23日)
- 東京都国立市  
(くにたち市民芸術小ホール/東野祥子/12月5日～8日)
- 福岡県宗像市  
(宗像ユリックス/長井江里奈/12月6日～9日)
- 愛知県半田市  
(半田市福祉文化会館雁宿ホール/田畑真希/12月7日～10日)
- 兵庫県豊岡市  
(豊岡市民プラザ/鈴木ユキオ/2019年1月16日～19日)
- 沖縄県浦添市  
(浦添市てだこホール/北尾亘/2月14日～17日)

#### ○Bプログラム

- 神戸市  
(神戸アートビレッジセンター/長井江里奈/9月22日～24日、11月20日～25日)
- 徳島県徳島市  
(徳島県郷土文化会館あわぎんホール/セレノグラフィカ/11月24日～25日、2月26日～3月4日)
- 静岡県川根本町  
(川根本町文化会館/中村蓉/2月1日～3日、3月6日～11日)

#### ○Cプログラム

- 埼玉県入間市  
(入間市産業文化センター/北尾亘/12月13日～16日)

## 財団からのお知らせ

### ●第19回地域伝統芸能まつり開催



写真：第19回地域伝統芸能まつりのステージから  
左：熊本新町獅子舞(熊本県熊本市)  
右：フィナーレには出演者が勢揃い

#### ●第19回地域伝統芸能まつり

[会期] 2019年2月24日(日)  
[会場] NHKホール(東京都渋谷区)  
[主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、一般財団法人地域創造  
[実行委員] 板倉敏和、梅原猛、鎌田東二、香山充弘、菅康弘、下重暁子、田村孝子、安田充、山折哲雄、山本容子(50音順、敬称略)

※梅原猛委員におかれましては、平成31年1月12日にご逝去されました。ここに深く哀悼の意を表するとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

[後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK

#### ◎演目・出演自治体

- 盛岡さんさ踊り(岩手県盛岡市)
- 熊本新町獅子舞(熊本県熊本市)
- 八木節(栃木県足利市)
- 花輪ばやし(秋田県鹿角市)
- 狂言「呼声」(大蔵流)  
出演：山本東次郎ほか
- 三作神楽(山口県周南市)
- 早稲谷鹿踊(宮城県気仙沼市)
- 長崎くんち 龍踊(長崎県長崎市)

●地域創造ウェブサイトで、当日の様子を動画によりご紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.jafra.or.jp/matsuri/>

これまで全国各地の183の地域伝統芸能を紹介してきた「地域伝統芸能まつり」が、2月24日(日)にNHKホールで開催されました。今年のテーマは「躍る(おどる)～身も、心も、弾む。～」。

日本各地の地域伝統芸能7演目と古典芸能1演目が披露され、直近10年間で最多となる2,600人を超える観客を魅了しました。

オープニングでは、この日の出演者が、地域伝統芸能まつりテーマ曲『曼陀羅21』に乗って一斉に登場し、会場を活気づけました。

最初の演目は、岩手県盛岡市から「盛岡さんさ踊り」。「サッコラ チョイワヤッセ」の掛け声がりズミカルな太鼓の音色とともに、会場に響き渡り、ぴたりと揃った見事なフォーメーションに目が釘付けになりました。

次に登場したのは、熊本県熊本市から「熊本新町獅子舞」。赤と黄色の獅子舞が、ドラと笛の音に合わせて力強く舞いました。2頭の獅子が大きく首を振って踊る勇壮な姿に、引き込まれました。続いて、栃木県足利市から「八木節」。軽快なリズムに合わせて、コミカルで可愛い踊りを披露するのは、地元の足利女子高の創作ダンス部のメンバーたち。盆踊り唄の美声と女子高生ダンサー、足利八木節連合会の踊りがマッチし、独特の世界観を演出しました。

続いて、秋田県鹿角市から「花輪ばやし」。壮大で豪華絢爛な屋台が、舞台の上をゆっくりと旋回。腰抜け屋台と言われる屋台には床がなく、演奏者たちは歩きながら、太鼓のバチを高く掲げてのパフォーマンスを披露しました。華やかな屋台と陽気なお囃子に、現地を訪れたかのような雰囲気を体感しました。

第2部は、フェスティバルのもうひとつの柱である古典芸能から始まりました。幕が上がると、ステージ上には能舞台が設置されています。今回は、狂言『呼声』(大蔵流)を、人間国宝の山本東次郎さんらが演じられました。わかりやすく楽しい演目に、自然と引き込まれました。

舞台は伝統芸能に戻り、山口県周南市から「三作神楽」。4人の舞人たちが、軽快なテンポで飛び跳ねたり、回転したりの踊りを見せました。ラストには吊るされた太綱を昇って降りるアクロバティックな演技に息を飲みました。

そして、宮城県気仙沼市から「早稲谷鹿踊」。竹を割って結束した4メートル以上のササラを背中に立てた8頭の鹿が、腰に太鼓を下げ、頭には本物の鹿の角をつけて、囃し手役の化け坊主と唄いながらステップを踏みました。ザザンコザンザンという独特の太鼓のリズムで躍動感を演出しました。

最後に登場したのは、長崎県長崎市から「長崎くんち 龍踊」。舞台上には諏訪神社の棧敷が再現され、出演者が見守る中、全長20メートル、総重量150キロの龍体が、龍踊独特の音楽「唐楽拍子」に合わせ、まるで生きているかのように、勇ましくエキゾチックに舞台を泳ぎました。アンコールを意味する「もってこーい」の掛け声が鳴りやまず、会場の熱気は最高潮に達しました。

興奮冷めやらぬ中、全出演者が「まつり」の手ぬぐいを振ってのフィナーレ。客席からは、出演者の方々への敬意と今後への期待を込めた盛大な拍手が惜しみなく送られ、第19回地域伝統芸能まつりは幕を閉じました。

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●ステージラボ富士見セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。

2019年度前期セッションは、富士見市民文化会館キラリ☆ふじみを会場に開催します。概要は以下のとおりです。詳細および申し込みについては、当財団ウェブサイトから募集要領、参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。皆様のご参加をお待ちしております。

**募集締切：4月22日(月) 必着**

### ◎ホール入門コース(定員20人程度)

[コーディネーター]

ヤッシー(トロンボーン奏者/BBBB(ブラック・ボトム・プラス・バンド)リーダー)

[対象者]

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織にあっては年数不問)の職員

[コース特色]

皆さんが面白いと思ってること。その面白いが、今回のテーマです！ワークショップや、実験的なプログラムを体験しながら「面白い」が、ホールの楽しさ、地域の皆さんの楽しさにどう繋がっていくのか。大いに考え、大いに語り合っていくなかで、探していきたいと思います。

### ◎自主事業コース(定員20人程度)

[コーディネーター]

多田淳之介(演出家/東京デスロック主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督(2019年3月末任期満了))

[対象者]

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において、業務経験年数が2～3年程度の職員

[コース特色]

地域のホールとして、ホールに来てもらうだけではなく、ホールが地域にあることで何が生まれるかを考えるプログラムづくり、ホールで生まれた関係が地域で広がっていくためのプログラムづくりを考えます。鑑賞、創造、アウトリーチの連動について改めて考えてみましょう。

### ●ステージラボ富士見セッション

[日時] 2019年6月25日(火)～28日(金)  
[会場] 富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ(埼玉県富士見市鶴馬1803-1)

### ◎参加申し込み方法

当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」より参加申込書、申込アンケートをダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。  
<http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/>

### ◎申し込み・問い合わせ

芸術環境部 研修担当  
Tel. 03-5573-4068  
Mail: kensyu@jafra.or.jp

### ●公立美術館出前(オーダーメイド)型ゼミに関する問い合わせ

総務部 高野  
Tel. 03-5573-4143

### ●平成30年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」報告

この事業は、公立美術館のマネジメントに関する研修を行うもので、昨年度から開始しました。地域創造と申請館の共催で、申請館の関心のあるテーマの下、2年間にわたって複数回講師を派遣し、半日ほどの研修を行います。今年度は、昨年度から事業実施をしていた、札幌芸術の森美術館と熊本県立美術館と共催で、それぞれ1回ずつのゼミを開催しました。

札幌市では、昨年度オープンしたばかりの札幌文化芸術交流センター SCARTSを会場に、札幌市内、近隣市の公立美術館や、美術館の所管部局の行政職員を対象に開催しました。「美術館の付加価値より親しまれる場になるために」というテーマの下、雑誌「ミュゼ」編集長の山下治子氏を講師に招き、歴史系・自然史系の博物館の館キャラなどの取り組みの事例について講

義を聞いた後、ミュージアムグッズについて考えるワークショップを行いました。山下さん持参の全国の工夫あふれるミュージアムグッズを参考にしながら、それぞれの館のオリジナルグッズを持ち寄り、アイデアを共有する時間となりました。

熊本県では、昨年から引き続き関心事に、新たな観点としてインバウンド対策を付け加え、「観光と使命(ミッション)」というテーマの下、熊本県内の公立美術館、博物館や図書館の職員、美術館の所管部局の行政職員を対象に、熊本県立美術館を会場に開催しました。

全国通訳案内士の古屋絢子氏から、インバウンドを案内する視点を生かした具体的なお話を聞いた後、碧南市藤井達吉現代美術館の本本文平館長のお話から地域の美術館の社会的意義について考える時間

を持ちました。そうした2人のお話を伺った後に、さまざまな役割が公立美術館に求められる昨今において、今後の目指す方向性について全員でディスカッションを行いました。

2年間にわたり、それぞれの興味のもと開催した研修を通して、美術館同士の相互交流やマネジメントに関する意識向上に繋がった事業となりました。



札幌会場の様子

## 財団からのお知らせ

### ●平成29・30年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」鹿児島セッション報告

アウトリーチフォーラム事業は平成16年度に始まり、地域創造が都道府県と連携し、地域での演奏活動を通して創造性豊かな地域づくりに資することを目的とした事業です。今回の開催地は23・24年度に続き2回目となる鹿児島県です。公益財団法人鹿児島県文化振興財団(宝山ホール)が主体となり、県内4市町(始良市、伊佐市、長島町、知名町)と連携して実施しました。

平成29年10月に行われた宝山ホール主催のアウトリーチ・セミナーでは、講師に仲道郁代(ピアニスト)とセレノグラフィカ(コンテンポラリーダンスの振付家)を迎え、音楽とダンスという異なるジャンルの芸術が、互いにリスペクトすることにより生まれる「新たな世界」を参加者がワークショップを通して体感し、その後のシンポジウムで、地域や社会における芸術の役割や可能性について語り合いました。

2カ年事業の2年目となる今年度は、市町担当者向けの研修のあと、6月末に6日間の合宿形式によるアウトリーチ研修を行いました。オーディションによって選ばれた2組のアーティスト、「トリオ・リラ(ピアノトリオ)」と「Glück Saxophone Quartet(サクソフォン四重奏)」が、現代演劇の演出家(田上豊)とコンテンポラリーダンスの振付家(セレノグラフィカ)らコーディネーターと共に、45分間の限られた時間で「自分たちは何を伝えたいのか」「どうすれば伝わるのか」をひたすら試行錯誤し、音楽に演劇やダンスの手法を取り入れたオリジナルのプログラムが出来上がりました。

そして、平成30年9月から翌年1月にかけて、それぞれのアンサンブルが担当する2市町(トリオ・リラ:始良市・伊佐市、Glück Saxophone Quartet:長島町・知名町)で、小学校等でのアウトリーチ6回とホールでのコンサートを実施しました。多くの子どもたちや地域の人との出会いを重ね、彼ら自身も得難い経験となりました。

この事業の集大成となったガラコンサート。市町公演で行ったプログラムを中心に、前半はトリオ・リラが自分たちも大好きな曲「ピアノ三重奏曲第1番ニ短調Op.49」(メンデルスゾーン作曲)を、後半はGlück Saxophone Quartetが担当コーディネーターであるセレノグラフィカの2人とコラボによる「ジャズ・ワルツNo.2」(ショスタコーヴィチ作曲、ヴェルハート編曲)などを披露したほか、アンコールでは、2組のアーティストによる合同演奏をお届けしました。昨年、鹿児島が舞台となっ

た大河ドラマ『西郷どん』のオープニングテーマ曲が流れると、場内が一気に沸き上がり、大成功のうちに幕を閉じました。

今回、県の担当者としてこの事業に携わった川原誠さんは、「2年にわたる事業実施を通して、アーティストはもとより、さまざまな人の思いが込められて各種の演奏会が成り立っていることを、改めて実感しました。また、公共ホール相互の連携に加え、地域の方々とのネットワークづくりを強化することが、県全体の文化芸術活動の活性化に繋がるのだと再認識しました。今回学んだ手法を活用し、今後も文化芸術の振興に努めていきます」と言います。

コンサートではアウトリーチで出会った子どもたちとの再会もあり、この事業を通して、今後の鹿児島県内における、さらなる連携の可能性と展開が期待できるものとなりました。来年度は、秋田県内でプログラムづくり、アウトリーチとコンサートを、長野県でシンポジウムを実施します。



上:伊佐市でのアウトリーチ(平出水小学校)/中:知名町でのアウトリーチ(上城小学校)/下:宝山ホールでのガラコンサート



宝山ホールでのアウトリーチ研修  
(通し稽古)

●公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ  
芸術環境部 音楽担当  
Tel. 03-5573-4069

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●平成30年度「公共ホール演劇ネットワーク事業」報告

複数の公共ホールが共同して演劇作品の上演とワークショップなど地域交流プログラムを行う公共ホール演劇ネットワーク事業が終了しました。

平成30年度は9月のすばるホール(富田林市)を皮切りに、全国7つの公共ホールで『桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰～立ち切れ線香の章』を上演しました。この作品は、小説家・田中啓文の古典落語をキーワードに繰り広げられる人気ミステリー小説を基に、南河内万歳一座座長の内藤裕敬さんが脚本・演出を手がけ、上方落語家・桂九雀さんが演じる演劇と落語を融合させた珍しい舞台で、演劇ファン、落語ファン双方が楽しめる公演となりました。

地域交流プログラムは、それぞれの地域の特色に合わせて、内藤さんの演劇ワークショップ、九雀さんの落語ワークショップの2種類のプログラムを行いました。一部会場では落語ワークショップ参加者に公演本番で落語を披露するという体験もしていただきました。

参加したホールの担当者は「公演制作に関する見識を深めるとともに、地域の人たちとのネットワーク、地域文化の発信拠点としての役割など、改めて公共ホールが果たす役割の大切さを実感できました」と事業を振り返っていました。

平成31年度は、藤田貴大作・演出『めにみえない みにしたい』の公演と地域交流プログラムをさいたま市、富良野市、土別市、伊達市、札幌市、久留米市、福岡市、熊本市、東松山市で実施する予定です。



上：落語ワークショップ参加者のリレー落語披露(2018年10月21日/高知市文化プラザかるぼーと)  
下：富田林公演の一場面(2018年9月22日/すばるホール)

●平成30年度公共ホール演劇ネットワーク事業『桂九雀で田中啓文、こともあろうに内藤裕敬。笑酔亭梅寿謎解晰～立ち切れ線香の章』

#### ◎公演会期・会場

2018年9月22日：すばるホール(大阪府富田林市)/9月30日：能代市文化会館(秋田県能代市)/10月13日：サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター(長野県上田市)/10月21日：高知市文化プラザかるぼーと(高知県高知市)/2019年2月10日：豊岡市民プラザ(兵庫県豊岡市)/2月16日：茅ヶ崎市民文化会館(神奈川県茅ヶ崎市)/2月24日：浄るシアター(大阪府能勢町)

#### ◎地域交流プログラム実施日・会場(内容)

2018年8月9日：能代市文化会館(演劇ワークショップ)/9月6日、10月12日：犀の角・サントミュージゼ上田市交流文化芸術センター(落語ワークショップ)/9月15日：すばるホール(演劇WS)/10月20日：高知市文化プラザかるぼーと(落語WS)/2019年2月4日：能勢小学校(落語WS<小学校アウトリーチ>)/2月9日：豊岡市民プラザ(落語WS)/2月15日：茅ヶ崎市民文化会館(演劇WS)

#### ◎問い合わせ

芸術環境部 演劇担当  
Tel. 03-5573-4076

#### ●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ

芸術環境部 演劇担当  
Tel. 03-5573-4124

### ●平成30年度「リージョナルシアター事業」報告

演出家を公共ホールに派遣し、アウトリーチやワークショップを実施するリージョナルシアター事業。今年度は岩手県西和賀町(西和賀町文化創造館)、茨城県牛久市(牛久市中央生涯学習センター)、埼玉県東松山市(東松山文化まちづくり公社)、埼玉県秩父市(秩父宮記念市民会館)、新潟県魚沼市(魚沼市小出郷文化会館)、愛知県小牧市(小牧市市民会館)、愛知県武豊町(武豊町市民会館)、三重県鈴鹿市(鈴鹿市文化会館)、岡山県(岡山県天神山文化プラザ)の計9地域で開催しました。街の規模もホールのミッションもさまざまな中で、5名の派遣アーティスト(多田淳之介、田上豊、有門正太郎、福田修志、ごまのはえ)は各々の担当地域において、ホール担当者対話を重ねながらプログラムをつくっていきました。

牛久市では、地域の劇団「百景社」と協働して「ファシリテーター養成ワークショップ」を実施。派遣アーティストの多田さんと共に、

ワークショッププログラムの開発を目指しました。実際に小学校で実施したアウトリーチでは、劇団メンバーにアシスタントとして参加してもらうなど、実地経験も積んでもらうことができました。事業担当の中島祥子さんは「小学校アウトリーチは来年度も継続して実施する予定なので、劇団との連携を強め、二人三脚でプログラムをつくっていききたいです」と今後の展望を話してくれました。

また、小牧市では戦国時代の合戦「小牧・長久手の戦い」を参加者で再現するワークショップを実施。親子で参加する人が多く、キャンセル待ちが出るほどの人気となりました。地域資源を生かした内容とすることで、普段は演劇に馴染みのない層にもアプローチすることができました。

このように当事業は、多様なプログラムによってホールと地域の抱えるさまざまな課題や資源と向き合うことができます。2020年度の参加団体募集は後日詳細をお知らせい

たします。多くの応募を心よりお待ちしております。



上：多田淳之介さんと百景社メンバーによる小学校アウトリーチ(牛久市)/下：福田修志さんによる「小牧・長久手の戦い」を再現するワークショップ(小牧市)

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailをお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当

### ●2019年6月号情報締切

4月1日(月)

### ●2019年6月号掲載対象情報

2019年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

### 地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

○公共ホール等の求人情報

○公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。  
<http://www.jafra.or.jp/>

### 北海道・東北

#### ●青森県十和田市

十和田市現代美術館  
〒034-0082 十和田市西二番町10-9  
Tel. 0176-20-1127 大谷紗絵  
<http://towadaartcenter.com/>

#### ウソから出た、まこと一地域を 超えていま生まれ出るアート

美術館が取り組む(「地域アート」はどこにある?)プロジェクトの一環として実施する企画展。地域と実験的な活動を続けてきた北澤潤、Nadegata Instant Party、藤浩志の新作を美術館内外に展示。インドネシアの乗り物を来館者に貸し出すプロジェクトを市民と共同で運営するなど、人々との共同作業によりつくられる「地域アート」の可能性やそこにある課題を紐解くさまざまな試みを展開する。

[日程] 4月13日～9月1日  
[会場] 十和田市現代美術館



Nadegata Instant Party (中崎透+山城大督+野田智子)《24 OUR TELEVISION》(2010年/青森公立大学国際芸術センター-青森)(参考画像)

#### ●岩手県宮古市

特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター  
〒027-0023 宮古市磯鶏沖2-22  
Tel. 0193-63-2511 大原愛  
<http://iwate-arts-miyako.jp/>

#### 宮古市民文化会館プロデュース ゼロからはじめる中高生のための 演劇シリーズ「Q学」

一人の劇作家・演出家が3期にわたって宮古市に滞在し、中高生を対象として「鑑賞」「体験」「創造」の一連のプログラムを開催するシリーズ企画。今年度は

田上豊を招き、6月に市内高校生向けに公演鑑賞事業を、10月には中学校でのアウトリーチや公募ワークショップを実施。3期目となる今回、オーディションで選ばれた中高生と希望スタッフの10人が、田上が2015年に福岡の高校生と創作し、以後も各地で上演が重ねられている作品『Q学』の上演を目指す。  
[日程] 3月30日、31日  
[会場] 宮古市民文化会館

#### ●仙台市

3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク 企画・活動支援室)  
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1  
Tel. 022-713-4483 田中・水谷  
<https://recorder311.smt.jp/>

#### 星空と路—これまでの記憶、これからの記録—

東日本大震災による甚大な影響に対し、共に向き合い考えるため、市民と協働で復旧・復興のプロセスを記録・発信している同センターで、2012年3月から毎年続く展示・上映プログラム。市民やアーティストが記録した映像、写真、手記や、それらを元にした対話の場「てつがくカフェ」などを通して震災からの道のりを振り返る。  
[日程] 3月7日～4月21日  
[会場] せんだいメディアテーク

### 関東

#### ●群馬県高崎市

高崎映画祭事務局  
〒370-0815 高崎市柳川町31  
Tel. 027-388-9649 久保智彦  
<http://takasakifilmfes.jp/>  
第33回高崎映画祭

地方でも映画を観る機会をつくるため、1987年に有志の市民たちで始めた伝統の映画祭。今回はさまざまなカテゴリーの全60作品が市内各地で上映さ

れるほか、バックステージツアーやトークイベントなどの関連企画も開催される。また、今年度の受賞作品は9作品で、今の時代にこそ届けたい作品や、映画製作への強い姿勢を感じられるものが選出されている。  
[日程] 3月23日～4月7日  
[会場] 高崎市文化会館、高崎電気館、高崎シティギャラリーほか

#### ●群馬県太田市

太田市美術館・図書館  
〒373-0026 太田市東本町16-30  
Tel. 0276-55-3036 小金沢・石塚  
<http://www.artmuseumlibraryota.jp/>

#### 生誕100年 飯塚小玗齋展 —絵画から竹工芸の道へ—

竹という素材を尊重し、竹ならではの造形美を追求した竹工芸家・飯塚小玗齋の生誕100年を記念して開催する展覧会。若かりし頃は画家を目指していた小玗齋が、当初は自身の意に反しながらも竹工芸の道へと邁進し、挑むようにして素材と向き合い、「工芸とは何か、美とは何か」を真摯に問い続けた歩みを中学校時代から晩年までの約30点の作品と資料により紹介する。  
[日程] 2月2日～4月7日  
[会場] 太田市美術館・図書館



飯塚小玗齋「白錆花籃 銘 大海」(1987年/太田市蔵)

#### ●埼玉県蕨市

蕨市立文化ホールくるる  
〒335-0004 蕨市中央1-23-8



## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 048-446-8311 井田誠  
<http://warabi-fmpc.or.jp/kururu/>

### 蕨のアーティストたちvol.31 蕨市音楽家協会 中村美音 & 高野麗音デュオコンサート～美 しく美しい音の響演～

蕨市は音楽によるまちづくりを掲げ、平成27年度から「わら音」と題し各種音楽事業を展開している。本公演は市内在住のアーティストをピックアップするシリーズで、ヴァイオリンとハーブによる演奏会を「わら音」事業の一環として開催。このほか、地元の喫茶飲食組合と連携して公演チケットの半券提示でサービスを受けられる取り組みも実施する。

[日程] 4月14日

[会場] 蕨市立文化ホールくるる

### ●東京都江東区

東京都現代美術館  
〒135-0022 江東区三好4-1-1  
(木場公園内)

Tel. 03-5777-8600 関・藪前  
<http://www.mot-art-museum.jp>

### リニューアル・オープン記念展 「百年の編み手たち—流動する 日本の近現代美術—」

施設改修等による休館を経て約3年ぶりにリニューアル・オープンを迎える東京都現代美術館。新たな出発を記念して約5,400点の収蔵作品を核に、3フロアにわたる展示室全体を使った展覧会を開催。1910年代から現在までの日本の美術について、同館の美術図書室収蔵の創作版画誌や特別文庫などの資料も交えて新旧の表現を展覧することで、独自の創作を展開した編み手である作家たちの実践を紹介する。

[日程] 3月29日～6月16日

[会場] 東京都現代美術館

### ●東京都府中市

府中市美術館

〒183-0001 府中市浅間町1-3  
Tel. 03-5777-8600 金子信久  
<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

### へそまがり日本美術 禅画からヘタウマまで

“きれい”や“立派”な造形美と対極にある、不完全さや不格好な作品に惹かれる“へそまがり”な感性に注目して日本の美術史をとらえ直す展覧会。中世の水墨画から現代のヘタウマ漫画まで強烈なインパクトのある作品を紹介、日本美術の新たな味わい方を提案する。特設サイトには展覧会の舞台裏を発信するブログや出品作品を使ったペーパークラフトなどもあり、一味違った切り口で展覧会や作品の魅力伝えていく。

[日程] 3月16日～5月12日

[会場] 府中市美術館

### ●東京都小金井市

小金井市立はげの森美術館  
〒184-0012 小金井市中町1-11-3

Tel. 042-384-9800 中村ひの  
<https://www.city.koganei.lg.jp/kankobunka/453/hakenomori/index.html>

### すなはち喫茶す —中村研一の日常と「茶」

旧中村研一郎主屋と茶室「花侵庵」が国の登録有形文化財(建造物)として登録されることを記念し、洋画家・中村研一の暮らしにおける多様な「茶」との関わりを紹介する展覧会。小金井の日常を描いた絵画作品と、小金井移住後に打ち込んだ作陶(陶磁作品)を中心に紹介。堂本印象が中村に送った手紙など茶に関するもの、中村が自らの住まいを人に描き送った書状も展示する。会期中には、レクチャーツアー「研一さんのお宅訪問」なども開催。

[日程] 3月17日～5月12日

[会場] 小金井市立はげの森美術館

### ●横浜市

磯子区民文化センター杉田劇場  
〒235-0033 横浜市磯子区杉田1-1-1(らびすた新杉田4F)  
Tel. 045-771-1212 塚田理恵  
<https://www.sugigeki.jp/>

### 杉劇リコーダーず 第8回定期 演奏会～時代はめぐる、世界も めぐる～

2006年7月に区民企画アイデア提案事業としてスタートし、今年で結成13年目を迎えるリコーダーアンサンブル「杉劇リコーダーず」。日本を代表するリコーダー奏者・吉澤実の指導で、幅広い世代のメンバーが日頃から練習を重ね、全国各地のイベントに招かれて演奏を披露するまでに成長している。今回の定期演奏会には、小学1年生から70歳代までの56人が出演。リコーダーアンサンブルのための音楽物語『長ぐつクロ君』をはじめ、オペラのアリアやゲーム音楽などバラエティに富んだプログラムで、リコーダーの澄んだ音色を届ける。

[日程] 4月28日

[会場] 磯子区民文化センター杉田劇場

### 北陸・中部

### ●石川県金沢市ほか

いしかわ・金沢  
風と緑の楽都音楽祭実行委員会  
〒920-0856 金沢市昭和町20-1  
(石川県立音楽堂内)  
Tel. 076-232-8111 山田正幸  
<https://www.gargan.jp/>

### いしかわ・金沢

### 風と緑の楽都音楽祭2019

石川県立音楽堂、JR金沢駅周辺を中心に開催されるクラシック音楽の祭典。今年のテーマは「北欧とロシアの音楽～グリーグ、シベリウス、チャイコフスキー、ショパン～」で、世界のトップアーティストが金沢に集結し、コンサートを繰り広げるほ

か、クラシックと伝統芸能のコラボレーションや市民参加の大型コンサートもあり、金沢の街がクラシックに染まる。

[日程] 4月28日～5月5日

[会場] 石川県立音楽堂、金沢市アートホールほか石川県内各所

### ●静岡市

静岡音楽館AOI  
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9  
Tel. 054-251-2200 竹内啓  
<https://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/>

### 小学生のための「雅楽」ワー クショップ

世界最古のオーケストラとも言われる雅楽の楽器体験を小学生対象に開催。6月22日に子どものためのコンサートとして開催する「はじめての『雅楽』」をより一層楽しむための関連企画で、笙・箏・龍笛・舞を体験することができる。当館ではこれまで雅楽のコンサートを何度も取り上げてきたが、小学生向けの公演もワークショップ自体も初めての試み。

[日程] 4月20日

[会場] 静岡音楽館AOI

### ●静岡市

静岡県立美術館  
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2  
Tel. 054-263-5755 石上充代  
<http://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/>

### 屏風爛漫—ひらく、ひろがる、 つつみこむ—

元々使い勝手のよい調度品であった屏風は、置かれた場所に意味を与え、場をつくるという点でも機能的な道具である。その独特の形状は、描かれる絵にも影響を与え、屏風絵ならではの魅力ある造形を生み出してきた。今回は、美術館が所蔵する作品を中心に、桃山時代から近代までの27点を展示し、屏

風の形や機能に注目しながら、その楽しみ方を再発見する。

[日程] 4月2日～5月6日

[会場] 静岡県立美術館

#### ●静岡県菊川市

菊川文化会館アエル

〒439-0018 菊川市本所2488-2

Tel. 0537-35-1515 小林裕美

<http://kikugawa-ael.jp>

#### 菊川市制15周年「牧之原開拓史～侍たちの茶摘み唄～」

昨年2月に公演された市民劇が、多くの要望により再演される。今回は牧之原台地入植150周年にちなみ、周辺の菊川市・島田市・牧之原市・御前崎市・掛川市の5市にまたがって市民が出演するほか、作品に関する勉強会や朗読会も開催。牧之原台地の開墾の歴史を知ることとともに、日本有数の産地でもある地域のお茶産業への意識向上を目指す。

[日程] 4月14日

[会場] 菊川文化会館アエル



昨年の公演の様子

#### ●名古屋市

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

Tel. 052-971-5511 副田・石崎

<https://www.art.aac.pref.aichi.jp/>

#### 愛知県美術館リニューアル・オープン記念 全館コレクション企画「アイアートクロニクル1919-2019」

毎年1回全館でコレクションを紹介する展覧会を実施してきた同館。今回は愛知の洋画グループ「愛美社」が第1回展覧会

を開催した1919年を起点に、2010年代まで約100年にわたる愛知の前衛的なアートシーンを、名古屋市美術館や豊田市美術館の作品も多数混じえて網羅的に紹介。また、美術館の展示室では紹介し切れないまちなかの壁画なども関連イベント「ウォーキング」を通して紹介する。

[日程] 4月2日～6月23日

[会場] 愛知県美術館

#### 近畿

#### ●三重県伊賀市

伊賀市文化都市協会

〒518-0226 伊賀市阿保1411-1

Tel. 0595-22-0511 吉川和義

<http://www.bunto.com/>

#### 伊賀エンゲキ塾創作公演

##### 『ある日、楽園閣で』

昨年6月に開校した「伊賀エンゲキ塾」を受講した小学3年生から50歳代までの演劇未経験者を含む10人による創作演劇公演。地元出身の塾長たぐちえこの指導の下、メンバーで話し合いとエチュード(即興)を繰り返し、ゼロから脚本を創作。劇中では参加者がダンスを踊る場面も取り入れられ、約10カ月のワークショップを重ねてつくられた作品を舞台で披露する。

[日程] 3月30日

[会場] 青山ホール

#### ●滋賀県大津市

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

〒520-0806 大津市打出浜15-1

Tel. 077-523-7133 有田淳

<https://festival.biwako-hall.or.jp/>

#### 近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2019

びわ湖ホール周辺が音楽に溢れる祭典。2018年度から始まり2回目となる今回はテーマを「神よ、平和を与えたまえ」とし、テーマにちなんだ曲を各公演で取り上げるほか、夜に琵琶湖

畔でかがり火を焚いて演奏する「かがり火コンサート」など、ホール全館、周辺施設を使い2日間で60以上のプログラムを開催する。前日の26日には遊覧船ミシガンでの湖上公演も実施する。

[日程] 4月27日、28日

[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センターほか

#### ●大阪府八尾市

八尾市人形劇祭実行委員会

〒581-0803 八尾市光町2-40

Tel. 072-924-5111 井上恵理子

<https://prismhall.jp>

#### Yao人形劇まつり2019

2016年に開始した人形劇フェスティバル。大阪市内を拠点に活躍する人形劇団クラルテによる『しろくまくんどこへ?』をはじめ、市内の人形劇サークル7団体が上演する。人形劇サークルは、プリズムホールが実施していた「演劇フェスティバルin八尾」(現在は終了)で市民向けに実施された人形劇講座の修了生が中心となって立ち上げられたもので、近年ではホールと共にアウトリーチ活動なども行っている。

[日程] 4月14日

[会場] 八尾プリズムホール



人形劇団クラルテ「しろくまくんどこへ?」

#### ●神戸市

兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇

浜海岸通1-1-1

Tel. 078-262-0901 橋本・江上

<http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

#### コレクション展I

##### 特集「境界のむこう」

1万点を超える収蔵作品の中から横断的にコレクションを紹介する企画。今回は「境界」に関わる6つのテーマ(「領域」「線をひく」「東/西」「生/死」「他者/自己」「現実/非現実」)を設定し、境界のこちら側と向こう側の世界を見つめる。兵庫や関西ゆかりの作家による絵画・彫刻・写真など、多様なジャンル・時代の作品を展示。

[日程] 3月16日～6月23日

[会場] 兵庫県立美術館

#### ●兵庫県赤穂市

赤穂市文化とみどり財団

〒678-0232 赤穂市中広864

Tel. 0791-43-5111 富永恵一

<http://www.ako-harmony.jp/>

#### 郷土の生んだ芸術家たち

##### シリーズ第2弾 vol.5

#### 「春の訪れ～ピアノと弦楽器の音色にのせて～」

赤穂市に生まれ、地元を飛び越えて活躍しているアーティストの発表の場および市民に多様なジャンルの音楽を提供することを目的に実施しているプログラム。これまでにピアノや箏、声楽などによる演奏会を実施。今回は赤穂出身の2人のピアニスト(菅田真弓、岸元大周)が出演、ピアノデュオのほか、ヴァイオリン、チェロも加えた三重奏曲などを演奏する。

[日程] 3月30日

[会場] 赤穂市文化会館ハーモニーホール

#### 中国・四国

#### ●島根県益田市

島根県立石見美術館

〒698-0022 益田市有明町5-15

Tel. 0856-31-1860 角野・南目

<http://www.grandtoit.jp/>

・(てん)と——(せん)、いろ、かたち 島根の美術室

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

島根県にある優れた美術作品を一堂に集め、「点と線」「かたち」「視点」「光と影」「いろ」という要素を手がかりに、作品をじっくり見て味わうことを促す展覧会。最初に2枚の絵画を展示し、どう描かれているのかなど、気づきや疑問を持ってもらう導入から始まる。5つの要素と、アーティストの立場からみた絵画制作の道具や素材を知る展示を経て、最初の絵画を再び見てもらう構成となっている。

[日程] 4月20日～6月24日

[会場] 島根県立石見美術館

### ● 広島県廿日市市

HOT WAVE実行委員会

〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1(廿日市市芸術文化振興事業団内)

Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂  
<http://www.hatsukaichi-csa.net>

### 第29回広島ビックバンド・フェスティバル HOT WAVE in さくらびあ

広島県西部を中心に活動するアマチュア・ビッグバンドが合同で公演を開催することにより、各団体同士の親睦を深めるとともに技術の向上を目指し、広島ビックバンドファン、ジャズファンを増やしていくことで地域の文化向上を図る。当初は広島市西区民文化センターで開催していたが、2002年より毎年4月にさくらびあで開催しており、今年は7組の出演を予定している。

[日程] 4月14日

[会場] つかいち文化ホールさくらびあ



公演の様子(2007年)

### 九州・沖縄

#### ● 福岡市

福岡市美術館

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6

Tel. 092-714-6051 岩永悦子

<https://www.fukuoka-art-museum.jp/>

#### リニューアルオープン記念展

「これがわたしたちのコレクション+インカ・ショニバレCBE: Flower Power」

2年以上にわたる改修を経たリニューアルオープンを記念し、展示室すべてを用いて今後の活動のあり方を示す展覧会。開館以来、最大規模のコレクション展として「九州」に関わる5つの特集展示など、古美術から近現代まで代表的な作品約300点を展示。特別展示室では、花をモチーフに固定観念に疑問を投げかける作品を制作してきた美術家、インカ・ショニバレCBEの国内初個展を開催。桜をテーマとした新作も発表する。

[日程] 3月21日～5月26日

[会場] 福岡市美術館

#### ● 福岡県久留米市

久留米市美術館

〒839-0862 久留米市野中町1015(石橋文化センター内)

Tel. 0942-39-1131 森山秀子

<https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/>

#### 没後50年 坂本繁二郎展

洋画家・坂本繁二郎の没後50年にあたり、回顧展を生まれ故郷である久留米で開催する。20歳で上京し中央画壇で活躍、その後フランス留学も果たし、49歳で郷里近くの八女にアトリエを構えてからは制作三昧の日々を送った坂本。本展では、特に坂本が生涯描き続けた静物画に注目しつつ、それぞれの時代の代表作を含む146点を人生の歩みとともに紹介する。

[日程] 4月6日～6月9日

[会場] 久留米市美術館

#### ● 大分県大分市

iichiko総合文化センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 工藤茂

<http://www.emo.or.jp/>

#### iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ 第10回定期演奏会

2009年4月に結成、小学校低学年から大学生まで73人が在籍するホール付きオーケストラの定期演奏会。第33回国民文化祭・おおいた2018に出演するなど、充実した2018年度の活動を10周年記念演奏会で締めくくる。下野竜也を指揮に迎え、卒団生や地元の大分県立芸術文化短期大学生の応援も得て、初挑戦となるブラームスの交響曲第2番などのプログラムを演奏する。

[日程] 3月30日

[会場] iichiko総合文化センター  
iichikoグランシアタ

#### ● 宮崎県宮崎市ほか

宮崎国際音楽祭事務局

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

Tel. 0985-28-3208 児島望

<http://www.mmfes.jp/2019/>

#### 第24回宮崎国際音楽祭

伝統のクラシック音楽祭。今回は「音楽は世代を超えて」がテーマ。ピンカス・ズーカーマン、ライナー・キュッヒル、ミッシャ・マイスキーらお馴染みの巨匠たちに加え、三浦文彰、辻井伸行ら日本の若き俊英を招聘し、室内楽やオーケストラとの共演のほか、ミュージックアカデミーで選ばれた若手演奏家のコンサートなど、宮崎ならではのさまざまなプログラムが行われる。

[日程] 4月28日～5月19日

[会場] メディキット県民文化センターほか

#### 講座・シンポジウム

ロームシアター京都 「いま」を考えるトークシリーズVol.8 「障害と芸術の関係をめぐって」

複雑化し、混迷する時代を「いかに生きるべきか」。その手がかりをゲストと共に考えるシリーズ企画。2018年度最後の開催は、障害者をめぐる昨今の社会問題などを起点に、障害者の自己表現活動やアーティストとの協同創作事業などを踏まえながら、共に生きるとはどういうことかを考える。ゲストには、障害者の表現活動を主たる研究対象としている研究者・長津結一郎氏と、介護の現場をテーマにした作品を創作した経験をもつ演出家の村川拓也氏を迎える。

[日程] 3月30日

[会場] ロームシアター京都 パークプラザ3階共通ロビー

[問い合わせ] ロームシアター京都  
Tel. 075-771-6051

<https://rohmtheatrekyoto.jp/>

#### 募集

#### ピッコロ演劇学校・舞台技術学校 2019年度生募集

日本を代表する劇作家・演出家・俳優、現役で活躍する舞台技術者を講師に迎え、演劇や舞台づくりの基礎から実践まで、1年間かけて学ぶ充実のプログラムが開講。「ピッコロ演劇学校」は初心者対象の「本科」と経験者対象の「研究科」を設置。「ピッコロ舞台技術学校」は舞台美術・音響・照明の分野で実践的な技術やスタッフワークを基礎から学ぶ。

[授業期間] 2019年4月から1年間で原則毎週2回(18:40～20:40)

[応募締切] 後期4月3日(水)

※前期は募集終了

[問い合わせ] 兵庫県立尼崎青少年創造劇場 ピッコロシアター

Tel. 06-6426-1940

<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/>

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 富山県富山市

### オーバード・ホール タニノクロウ× オール富山 『ダークマスター 2019 TOYAMA』



『ダークマスター 2019 TOYAMA』。全5回のチケットは前売り時点で完売  
photo: Kazuhiro Takayama

#### ● タニノクロウ×オール富山『ダークマスター 2019 TOYAMA』

【原作】狩撫麻礼

【脚色・演出】タニノクロウ

【主催】(公財)富山市民文化事業団、富山市

【会期】2019年3月7日～10日

【会場】オーバード・ホール(富山市芸術文化ホール)舞台上特設シアター

#### \*1 『ダークマスター2016』

2016年5月に大阪のOVAL THEATERで上演。大阪を舞台に書き直され、関西の俳優・スタッフにより関西弁でリプロダクトされた。

\*2 映画や舞台の台本を脚色・改作すること。

2019年3月7日から10日まで、オーバード・ホールで『ダークマスター 2019 TOYAMA』が上演された。この作品は、昨年急逝した団塊の世代を象徴する漫画原作者・狩撫麻礼の短編を元にしたタニノクロウの代表作のひとつ(03年庭劇団ペニノ初演)。寂れた定食屋の無頼のマスターが、客としてやって来た当て所ない若者の魂を乗っ取り、跡継ぎのシェフとして洗脳・訓練する。

舞台では、リアルな定食屋のセットで炎を上げて調理が行われ、姿を見せずにイヤホンで調理法などの指示を出すマスターの声を、観客もイヤホンを通じて聞くという体感型演出になっている。今回は、富山出身のタニノが地元のシャッター商店街の定食屋を設定に書き直し、オーディションによる出演者13名、4カ月かけて富山で制作した舞台美術のスタッフ26名など舞台に関わった総勢50名が富山出身・在住というオール富山の市民参加型演劇プロジェクトとして取り組んだ。

3月10日、楽日に訪れると、大ホール客席を通して辿り着いた舞台上特設シアターには超リアル定食屋が出現し、少しゆったりした富山弁のマスターによる『ダークマスター』が始まった。



この企画をプロデュースしたのが、1996年の開館時から富山市民文化事業団職員としてオーバード・ホールの運営に携わり、現在、総務企画課営業係長として広報を担当している福岡美奈子だ。2015年度に富山出身の音楽プロデューサー・須藤晃が芸術監督に就任してから、職員が企画提案できる体制になり、昨年、タニノの岸田戯曲賞受賞作『地獄谷温泉 無明ノ宿』の地元凱旋公演を実現した。

「私は演劇専門ではなく、面識もなかったのですが、劇団のサイトからいきなり連絡しました。富山の山間の温泉宿を舞台にしたこの作品をどうしても地元で上演したかった。今回は、舞台を大阪に変えた『ダークマスター2016』(\*1)を見て、多くの市民に関わってもらえる富山版ができるのではないかと考えました」(福岡)

ホールに来たことがない市民が沢山いるこ

とを懸念した福岡は、開館20周年記念企画で「舞台の上の美術館Ⅱ」を提案。ホールの3面半舞台上に巨大な美術オブジェを展示し、劇場機構を生かしたショータイムを設けるなど約9,000人を集客した。同じ問題意識からさまざまなアートに無料でふれることができる「楽市楽座～アート・ショーケース」も今年初めて企画した。

『ダークマスター』でも、タニノのアイデアで舞台美術を市民で手づくりすることを決定。未経験者には一から説明しながら、できる時にできる範囲で参加するルールで完璧な舞台美術をつくり上げた。参加者のひとり、早稲田大学在学中に学生演劇を観ていたという税光華さんは卒業とともに帰郷。「普通のOLですが、東京や海外で活躍するタニノさんの作品に携われるチャンスだと思って応募しました。肩書きを越えて、演劇愛好者と出会えたのが嬉しい」と話す。

滅びゆく商店街の諦念が乗り移ったようなマスターを演じた六渡達郎さんは、30年以上、写真家として活躍。現在は市内で珈琲焙煎店を営む本物のマスター。「まさか初舞台を踏むことになるとは(笑)。舞台裏に3台のモニターがありますが、それできっかけを見ながらセリフを言うのですが、マイクが息も拾ってしまうので大変でした」と苦労話もどこか楽しそうだった。

タニノは、「私たちはマスターのような存在に蹂躪されてきたロスジェネの世代で、マスターの正体について思いを巡らせながら作品をつくりました。ホールから1駅の所に富山市民芸術創造センターという稽古場施設があり、長期間自由に使わせてもらえたのも良かった。富山で生きている人がどういう生活をして、何を考えているのか、毎晩、みんなと飲みながら話しました。そういうリアリティやシャッター商店街などの共通認識があって生まれた舞台。政治的でも、教育的でもない、ゆるやかなコミュニケーションの場として演劇が機能できたことが嬉しい」と明かす。

地域のリアルをすくい上げ、地元で潜在する舞台愛好者を可視化した本作は、「地域アダプテーション(\*2)」の新たな可能性をみせたプロジェクトになったのではないだろうか。

(早稲田大学研究者・岩城京子)